三重県図書館協会報　2026年3月29日発行

協会だより No.77

目次

図書館ボランティア部20周年 ……1
トピックス～図書館をめぐる話題から～ ……2
令和7年度図書館活性化推進事業のご報告 ……4
研修会のご報告 ……6
新館案内 ……8
ブックエンド ……8

編集・発行　三重県図書館協会＝津市一身田上津部田1234　三重県立図書館内　電話：(059)233-1181

図書館ボランティア部20周年

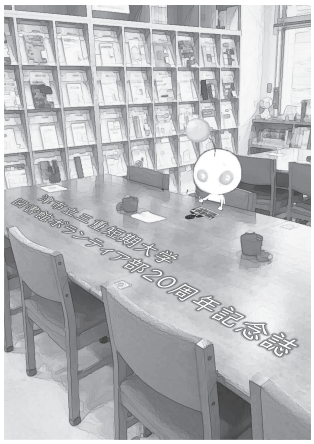
津市立三重短期大学附属図書館

津市立三重短期大学図書館ボランティア部は、２０２５年10月に活動20周年を迎えました。

津市立三重短期大学は、地域連携活動を幅広く展開しており、その一環として２００５年度に津市立一身田中学校から当館への要請を受け、同校の図書室と当館において学生による図書館ボランティア活動を開始しました。２０１０年度には「図書館ボランティア部」として組織化し、学生が主体となって活動を進めてきました。当館は活動開始時より、この活動を支援しています。

図書館ボランティア部は、これまでに２７７名のメンバーが参加し、図書装備・書架整理・テーマコーナー設置・館内装飾・イベント開催など、学生のアイデアを活かした多様な活動を展開してきました。活動10周年にあたる２０１５年度には、イメージキャラクター「ライブラリアン」を考案し、現在もさまざまな場面で活躍しています。２０１６年度からは一身田中学校の図書室にて、ワークショップを中心としたイベント「みえたん・ラボ」を開催し、多くの中学生が図書室を訪れる機会をつくり、交流を通じて図書館の魅力を伝えています。

図書館活動に学生が参加することで、学生ならではの視点から図書館の魅力を発見し、率直な意見を運営に反映させることができるため、利用者にとってより親しみやすい図書館づくりを進められます。図書館ボランティア部は、当館にとって大変心強い存在です。



『20周年記念誌』表紙

このたび、活動20周年を記念して、関係者のメッセージやこれまでの活動記録を一冊にまとめた『20周年記念誌』を作成しました。記念誌の編集を進める中で、20年にわたる歩みを丁寧に振り返ることができました。また、これまでご支援いただいた教職員の皆さま、活動をつないできた卒業生・在学生の皆さんから寄せられたメッセージには、温かな気持ちと大切な思い出があふれており、図書館やボランティア活動の意義を改めて実感することができ、大きな励みとなりました。『20周年記念誌』のＰＤＦ版は当館ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。

今後も図書館ボランティア部の活動を一層充実させ、より魅力的な図書館を目指してともに歩んでまいります。

『20周年記念誌』PDF版

トピックス
～図書館をめぐる話題から～

触る本・聴く本をつくる人々、点訳者・音訳者を育てるために！

四日市市立図書館
中村成孝

四日市市立図書館では、図書館協力者の養成のため、「点訳体験講座」「音訳体験講座」を毎年開いています。図書館協力者とは、館長の指示のもとで、対面読書及び点字資料・録音資料の制作に携わる点訳者・音訳者・デイジー編集者等です。いつから講座を開いているかは不明ですが、視覚障害当事者である私が図書館に就職した１９９３年には既に実施していたと記憶しています。

受講者は、初めて点訳・音訳を体験する人がほとんどです。初めに30分ほど、職員から読書バリアフリーについての講義を受けます。講義の後は、図書館協力者による実技指導に入ります。「点訳体験講座」では、実際に点字器で点字を書いて、50音・分かち書きなどの点訳の基本を学びます。「音訳体験講座」では、腹式呼吸や発声法から始まり、文章の意味を正しく伝える読み方を練習します。マイクに向かって文章を読んで、録音もします。

２０１９年6月には、読書バリアフリー法が成立し、視覚障害者等への読書環境の整備が進められています。見えない人に本を届けて、誰もが読書できる社会を実現するためには、図書館協力者の存在が欠かせません。この講座を通じて、一人でも多くのひとが、資料制作に携わってくれることを毎年願っています。


音訳体験


点訳体験

「公共図書館で働く視覚障害職員の会（通称・なごや会）」が結成される

１９９１年：点字図書室（現点字・録音資料室）を増築

２０１９年：「四日市市立図書館視覚障害者等サービス実施要綱」策定

２０２４年：「第５次四日市市障害者計画」に読書バリアフリーに関する事項を記載

コマヤスカンの『恐竜レッスン』で恐竜博士になっちゃおう！＋絵本ができるまで

津市津図書館
中澤利美

津市津図書館では、図書館に親しみをもっていただく機会にと様々なイベントを開催しています。今回ご紹介する講演会は、その折々で関心のある事項をテーマに、毎年開催しています。

令和７年度は、「コマヤスカンの『恐竜レッスン』で恐竜博士になっちゃおう！＋絵本ができるまで」と題して、８月10日（日）に、絵本作

見えない人に本をとどけて50年！視覚障害者等サービスの歩み

１９７５年：「視覚障害者の図書館利用要綱」策定（２０１９年廃止）

１９７７年：「四日市録音奉仕の会」発足

１９８９年：「点訳グループくすの木」発足

市立図書館に視覚障害職員を採用

家コマヤスカンさんをお招きしたトークライブとワークショップ「まめまめ絵本をつくろう」を開催しました。

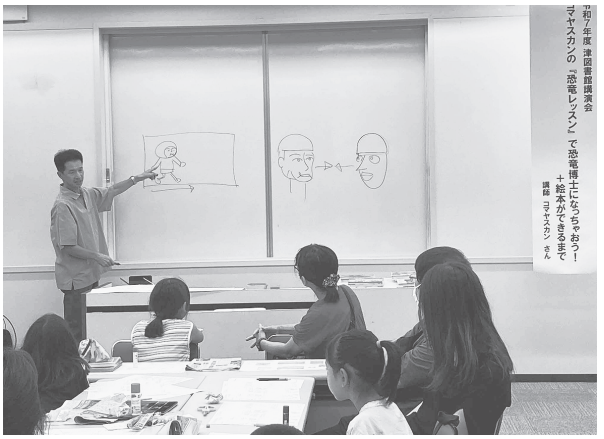
トークライブでは、まず『恐竜レッスン』の制作秘話を伺いました。監修の先生とのやりとり、絵の細かな修正方法、注目ポイントなど、どれも興味深いお話でした。また、絵本の作業工程について、著作を例に挙げながら、画材のこと、色付けのことなど、写真を用いて、わかりやすくお話くださいました。



トークライブ

一方、ワークショップは、当館館長、職員も参加の読み聞かせでスタート。それぞれ緊張しつつも、練習の成果?!を聞いていただくことができました。

続くみなさんお待ちかねのワークショップでは、絵本を作る際に大切な工程である「ダミー本」のミニチュア版「まめまめ絵本」を作りました。大人も子どもも夢中になって作業に取り組んでいただきました。



ワークショップの様子

時間内に完成した作品の一部は、後日館内で展示し、来館する人が楽しそうに手に取っていただく姿も見られました。

今回の講演会は、幅広い年代の方にご参加いただくことができました。今後もたくさんの方に図書館に関心を持っていただけるよう、イベントを企画、開催していきたいと思います。

「キャンドルナイトコンサート」を開催しました

亀山市立図書館
山川美香

令和7年11月に「亀山市図書館100年プロジェクト～本が育む人間力あふれた100年後の子どもたちのために～」事業の一環として「キャンドルナイトコンサート～絵本と音楽でめぐる秋と冬～」を開催しました。



イベントの様子

図書館で気軽に文化芸術に触れていただく場の提供、地域団体等の活動紹介を通して、地域の魅力や活動を特に子どもたちに身近に感じてもらえるようにと企画しました。



イベントの様子

市内在住の作曲家でクラリネット兼ピアノ奏者の伊藤慶佑さんとその仲間のアルトサクソフォン、フルート奏者の協力を得て、秋冬の楽曲演奏と絵本ライブを行いました。職員も絵本の画像の取り込みと編集、本番では、ページ展開のパソコン操作を担当し、演者と一体となってコンサートを創り上げました。

イベントを通してまちの魅力発信や郷土愛を育みたいと思い、開催時刻を夕刻に設定し、地場産品のロウソク（約１００個のＬＥＤキャンドル）で会場の装飾を行い、揺らめく灯りと美しい音色が織りなす空間を演出しました。

伊藤さん作のイメージ曲にのせて『モチモチの木』と、冬の名曲にのせて『賢者のおくりもの』の朗読を行い、『モチモチの木』のクライマックスシーンは、美しい絵とメロディが重なり合い、会場は幻想的な雰囲気に包まれました。このような演出により、不朽の名作の魅力を観客の皆様にご体感いただけたことをうれしく思います。

伊藤さんより寄贈いただいた楽譜は、創作の思いなども盛り込まれた貴重なもので、コンサートの記録集の形にして地域資料化しようと作業を進めています。

今後もこのような取り組みを展開し、地域資源の紹介や人々の交流の場の創出を行い、読書活動の推進や図書館機能の強化につなげていきたいと思います。

令和7年度 図書館活性化推進事業のご報告

令和7年度の当協会による図書館活性化推進事業では、4館が助成の対象となりました。それぞれの館から、事業のご報告をいただきました。

①「わくわく！ムシフェスタ☆」開催！

伊勢市立小俣図書館　田畑美佳

子どもたちに本や図書館が好きになってもらうためのイベント「わくわく！ムシフェスタ☆」を開催いたしました。「わくわく！ムシフェスタ☆」は①夏休みイベント②おはなし会イベント③知識、体験イベントの３つのイベントからなっています。夏休みに行なった「わくわく！ムシフェスタ抽選会」では、図書館の色々なイベントに参加したり、貸し出しをしたりした小学生以下に抽選券を配布し、抽選会を行いました。

おはなし会イベントでは、虫になったような世界感を味わってもらうためにビッグブックを活用した館内でのおはなし会と、園庭にブルーシートを敷き、屋外で読み聞かせと自由読書を楽しむ出張青空おはなし会を行いました。



イベントの様子

知識、体験イベント「チョキチョキ！ムシの切り紙にチャレンジ」では、県総合博物館の方を講師にお招きし、ムシについてのおはなしと切り紙を行いました。

子どもたちに「本のムシ」になってほしいという思いから選んだ今回のテーマ「ムシ」。図書館が子どもたちに「楽しい」を感じてもらえる場であることを定着させるために、これからも継続的に子どもと読書をつなぐイベントを実施していきたいと思っています。

②「読書のアニマシオン研修会」を開催しました

菰野町図書館　若山麗

令和7年8月28日、読書への興味を育むスペイン発祥の教育法「アニマシオン」の理解を深める「読書の


イベントの様子

アニマシオン研修会」を行い、学校関係者・図書ボランティア団体ら32名が参加しました。

この研修会は「地域の子どもたちが本に親しみ、読書意欲を高めることを大人が支援すること」を目的としています。

長年にわたり、絵本や物語を活用した「アニマシオン」を教育現場で実践している「読書のアニマシオン研究会」の笠井英彦さんと笹島朋美さんを講師に迎え、ゲームに取り組みながら子どもの読解力を養う実践例を紹介していただきました。



講演の様子

講演後、参加者はグループに分かれて、課題絵本スーザン・ハーレイ作『わすれられないおくりもの』を読み、挿絵を正しい順番に並び替えながらグループで場面の説明文を考えるなど、さまざまなアニマシオンの手法を体験しました。


研修会の様子

参加者のアンケートでは「学校の授業にも取り入れやすい形で教えていただき、実際にやってみます」、「幼保育園で、子どもたちに絵本で『遊びながら学ぶ』を実践したいと思います」との意見がありました。

今後は、図書館を拠点として研修の参加者が定期的に集まり、実践報告や意見交換を行うなど研修で学んだことを活かしていきます。

将来、菰野町だけではなく三重県全体の子どもたちがアニマシオンを通して「読書って楽しい！」という読書の面白さを味わえるよう願っています。

③認知症カフェキックオフイベント「老いと演劇のワークショップ」

名張市立図書館すなお　中野和巳

名張市立図書館すなおでは、ちぃちかけん（医療機関主体の地域活動団体）や市まちの保健室等と協働し、「図書館で健康づくりプロジェクト」を進めています。その一環として、今後定期開催を予定する認知症カフェのキックオフイベントを実施しました。演劇的手法を用いた参加型ワークショップを通じ、地域住民・図書館利用者・医療福祉関係者が認知症への理解と共感を深め、活動への関心と参加意欲を育むとともに、図書館利用にかかる幅広いニーズの開拓を目的としました。



ワークショップの様子

講師は、認知症×演劇で全国的に注目されるOiBokkeShi主宰、俳優／介護福祉士の菅原直樹氏。会場は図書館を舞台に、「認知症のある世界」をあたたかく体験できる内容


ワークショップの様子

でした。当日は当事者・家族・支援者・市民など約40名が参加。指さしゲームや椅子取りゲーム等の「あそびリテーション」で緊張をほぐし、続く「イエスアンドゲーム」では、願いを否定せず受け止める関わりを体験しました。寸劇では「本人に見えている世界」を尊重することの意味を実感し、グループワークでは介護の辛さや偏見への戸惑いなど、普段語りにくい思いを共有し合いました。図書館が「ひらかれた居場所」として地域と連携し、支え合えるまちづくりへ踏み出す一歩となりました。

④子どものファンタジーの世界を広げよう！

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部図書館

本学図書館は、鈴鹿市と津市の境に位置し、閑静な住宅街に囲まれた丘の上に建っています。令和7年度は、「地域とつながる、世界とつながる、未来とつながる」という本学のテーマに基づき、地域に開かれた図書館づくりを目的として取り組みを行いました。

当館は、留学生を含む国際社会に関心をもつ学生や、保育者・教育者を志す学生に多く利用されており、絵本資料が充実しています。本事業では、これまで2階に配架していた絵本をすべて1階入口付近に移動し、地域の親子が靴を脱いで安心して絵本を楽しめるスペースを新たに整備しました。あわせて、この空間を地域に広く知っていただくことを目的に、「ファンタジーの世界を広げよう」と題したイベントを実施しました。



イベントの様子

イベント当日は、子どもたちがシールや色鉛筆を使って手作り絵本を製作し、想像力や表現力を伸ばすひとときとなりました。また、本学学生による日本語・英語・ネパール語・韓国語・中国語での絵本の読み聞かせや、母国語のあいさつの紹介を通して、多様な言語に親しむ場を提供しました。さらにスタンプラリーカードを配布することで、継続的な来館につながる工夫を行いました。今後も、学習環境の整った大学附属図書館として、地域と温かくつながる活動を続けてまいります。

研修会のご報告

図書館職員基礎講座

比較的経験の浅い職員向けの研修である基礎講座を、12月18日に津市の三重県生涯学習センターで開催しました。「図書館と著作権」をテーマに、三重県総務部法務課の岩田和恵氏を講師にお招きしました。この研修には23名の方にご参加いただき、その中から尾鷲市立図書館の三鬼満保さんにご報告いただきました。

図書館職員基礎講座に参加して

尾鷲市立図書館　三鬼満保

今回、私が初めて受講した基礎講座は「図書館と著作権」というテーマで県庁勤務の弁護士である岩田氏から、図書館に関する著作権の説明を受けました。

まず始めに「著作権とは」から始まり、様々な事例による解説や説明があり、大変わかりやすく、参考になる講義内容でした。

普段、私は図書館内で業務を行っていますが、著作権についての理解があいまいなままのところが多くあることに気づくことができた講座でした。

中でも、著作権法の「文化的な創作物（著作物）」については、第三者による公正な利用と作者の利益保護の調整について深く理解することができました。

また著作権の制限については、著作権が制限される事例をいくつかあげての説明でしたので、イメージができてさらに理解が深まりました。加えて著作権法31条「図書館等における複製等」の1項・複写サービスの説明については、普段から一番不安な点であったため、今回の説明でよく理解ができました。このことにより今後の業務に自信を持って役立てたいと思います。

今回の著作権についての講座は、

難しいという先入観がありましたが、岩田氏のわかりやすい解説、説明によって、より深く著作権のことを理解することができ、受講をしてよかったと感じながら、あっと言う間に時間が過ぎていきました。

このような貴重な講座が来年度もあれば積極的に参加をさせていただき、利用者に対しての「充実したサービスの提供」に役立てるようにしたいと思います。

図書館職員専門講座

ある程度の経験年数を経た職員向けの研修である専門講座を、11月5日に津市の三重県生涯学習センターで開催しました。「図書館と災害対応について」をテーマに、一般社団法人減災ラボより鈴木光氏を講師にお招きしました。この研修には、21名にご参加をいただき、その中から、松阪市嬉野図書館の大平愛子さんにご報告をいただきました。

図書館職員専門講座に参加して

松阪市嬉野図書館
大平愛子

一般社団法人減災ラボの鈴木光さんに「被災地の図書館から考える図書館の防災・減災」というテーマで研修していただきました。最初に能登半島地震や東日本大震災の際、各地の図書館でどのような被害があったのか、実際の映像や写真を通して被害状況を見ました。書棚から本が落ちて散乱しているのを目の当たりにし、遠く考えていた災害への危機を肌身に感じました。

災害が起こったときに、図書館が一日でも早く再開することで、利用者に災害前の日常を取り戻してもらい少しでも安心して過ごしてもらえる、というお話を聞いて、減災の重要性を改めて実感しました。

後半は、各自が持ち寄った自館の平面図をもとに「my 減災マップ」を作成しました。死角になる場所や危険だと思う場所だけではなく、一時避難に適した安全な場所を考えたり、棚の固定の有無や、避難経路を見直したりしながら、地図に書き込みをしました。震災の被害の話を聞いた後だと、照明の下や窓ガラスの傍など、館内のあちこちが危険だと感じました。

講座を受講する前は「地震が来たら本が棚から落ちるのは当然だし、避けられないことだ」と思っていました。ですが、鈴木さんのお話を聞くうちに、日頃から減災対策をすることで「床に落ちる本を一冊でも減らすことができる！」と考えられるようになり、my 減災マップを早速活用したいと思いました。

三重県は巨大地震が起こると多大な被害が想定される地域です。だからこそしっかりと備え、どんな状況のときでも地域の人の「居場所」になれるような図書館づくりを目指していきたいです。

視察研修

先進的な取組を行っている図書館を視察し、見識を深める視察研修を、2月16日に実施しました。小牧市立中央図書館を視察したこの研修には、21名にご参加いただきました。参加された方の中から、三重県立図書館の田邊涼太さんにご報告をいただきました。

視察研修に参加して

三重県立図書館
田邊涼太

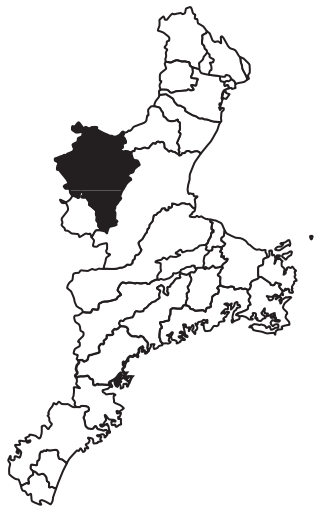
今回の見学では、新館開館五年を迎えた小牧市立中央図書館を訪れ、開館までの経緯や現在の運営状況について説明を受けました。計画策定にあたっては、ワークショップや意見交換会を通じて幅広い市民の声を集め、図書館をあまり利用しない層の意見も取り入れてきたとのことです。その結果、多世代・多目的に対応した空間づくりやサービスが実現していることがうかがえました。

館内は目的別に分かりやすくゾーニングされ、閲覧席や動線にも長時間滞在を想定した工夫が見られました。多くの利用者が思い思いに過ごしており、地域の日常的な居場所として定着している様子が感じられました。また、同館では新館開館から五年間、利用者数が毎年増加し続けているそうです。これは、施設整備に加えて、運営面での工夫が継続されてきたことにより、図書館の魅力が市民の方に広く認知されてきた結果であると考えられます。

今回の見学を通じて、市民の声を聞き取り、運営に取り入れていくことの重要性を改めて認識しました。自館においても、利用者の意見を把握する機会を増やし、小さな改善からでも継続的に行うことで、利用の広がりにつなげたいと思います。

新館案内

「にんにんブッカー」を運行しています



伊賀市上野図書館では、令和7年4月から移動図書サービス「にんにんブッカー」を火曜日午前、金曜日午後の週2回、市内4ヶ所のステーションを巡回しています。

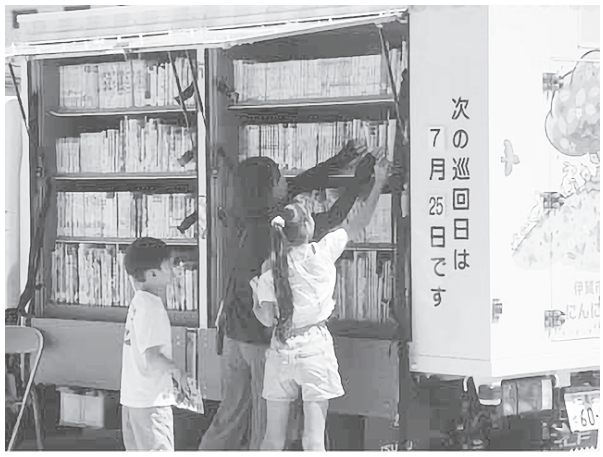
この移動図書サービスの愛称である「にんにんブッカー」は、公募により、市内小学生の方から「伊賀忍者のように伊賀地域を駆け巡る。みんなに愛されるように。」との思いを込め名付けられました。

この「にんにんブッカー」には、約1，300冊の図書を積んでおり、図書館・図書室と同様に、資料の貸出・返却や予約、市内図書室からの本の配送、新規登録などの手続きもできます。

また、市内の読み聞かせ会や、各種イベント等にも参加し、図書サービスを届けています。

利用される方からは、「図書館が近くなったようで便利になった」「久々に図書館を利用できた」等の声をいただいています。

これからも市内図書館と連携して、本に触れあうためのきめ細やかなサービスを実施します。



にんにんブッカーを利用する様子



ブックエンド

『新世界より』



貴志祐介／著
講談社

桑名市立中央図書館　鈴木貴哉

『黒い家』『悪の教典』などでホラー・ミステリー作家として不動の地位を得ている著者のＳＦ作品。

注連縄に囲まれた自然豊かな集落「神栖６６町」に生まれた主人公早季は、成長するにつれ、徐々に町の歪さに気付き、やがて世界の真実に触れていく。

物語のテーマとして、主人公たちが備えている「呪力」が、作品全体を通して大きな意味を持つ。イメージするだけで人の命を容易に奪うことができる力。人はどこまで理性を持ちつつ、想像力を働かせて他者と接することができるのか。

最近流行の「転生して最強・チート系作品」に辟易している方に是非薦めたい傑作である。